



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

本物

私はあんまりブランドにこだわらない主義である。というか、ブランド物の良さには興味があっても、それを自分が持つことになるのはどうなのか？　と思ってしまう。

去年、香港へ行った時に、Kちゃんという女優の友達が「学生時代から欲しかった」と、どうしてもカルティエの時計を買い出した。

「そろそろ30代後半やし、やっぱり社会的にもいい時計を一本持つておいた方がええかと思って」

と、彼女は結婚式などにしていく「本物」の時計がないことや、ちょ

つとした取材の時にあつたら便利であることを語っていた。

その時も「ほな、買うたら？」と面白がつてついては行つたが、どうも自分が買うというイメージには遠かつた。ま、実際Kちゃんはカルテイエのスポーツタイプの時計を買つて、「なにが結婚式や！」と突つ込まれるような買い物をしたせいでもあつたのだが…。

そんな私にこの夏、本物志向の気持ちが湧いた。これだけはやはり本物でないといかん！ しかもブランドの方が絶対いい！ と思うようになったものがある…氷だ！ それはちよつとした宴会を家でやっていて、夏なので、みんなが水割りなどを飲むので氷がなくなつたことがきつかけだった。

近所のコンビニに行つて買い足そうとしてのだが、ご近所もほぼ同じような状況だったのだろうか、クラッシュアイスの袋が売り切れていたのだ。あるのはごっつい板状の氷だけ。「まあ、ええか。帰つて割つた

「ええねんから」とバーテンのバイトをやった経験を生かして、板氷を買って帰った。

そして、10年ぶりくらいにアイスピックを持って氷を割り、みんなでもたまたま宴会を再開したのである。ところが…。

「なんじゃこら？」とみんな自分のコップに入った氷に驚いた。なんとまるやかなフォルム、涼しい透明感、加えてくせのない味…。

「やっぱり氷は本物に限るぞ」

と、その場に居た者はみんな唖った。割った氷なんて深夜に行くバーでしか見たことがないものだが、バーのお酒が美味しいのはどうも氷のおかげが半分あるようだ。

「今後、我が家の氷は絶対に板や！」

旦那が狂喜して叫んでいた。すっかり夫婦で本物の氷にはまっている状況だ。今はたこ焼を焼く時のたこ焼返しのピックで割っているのだが、この際本物のアイスピックを購入しようかと考え中だ。氷ひとつでこれ

ほど夜の宴会がグレードアップするとは、思ってもみなかった本物の凄
さである。

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーII」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
